

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和6年第32週の発生動向

□トピックス

・ヘルパンギーナ(定点把握対象疾患)

第32週(8/5～8/11)の県内定点当たりの報告数が6.0となり、今年初めて流行警報レベル開始基準値(6)を超えた。定点当たりの報告数が流行警報レベル開始基準値(6)を超えるのは2023年第21週以来である。詳細後述。

□ 全数報告の感染症(32週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核1例。
3類感染症：報告なし。4類感染症：日本紅斑熱1例。
5類感染症：アメーバ赤痢1例、梅毒3例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	都城	60歳代	男	肺結核	痰、発熱
4類	日本紅斑熱	小林	80歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常、倦怠感
5類	アメーバ赤痢	宮崎市	30歳代	男	腸管アメーバ症	しぶり腹、大腸粘膜異常所見
	梅毒	都城	30歳代	男	無症状病原体保有者	なし
			30歳代	女	早期顕症梅毒Ⅰ期	梅毒性バラ疹
			60歳代	男	無症状病原体保有者	なし

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,448人(定点当たり33.3)で、前週比80%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【新型コロナウイルス感染症】

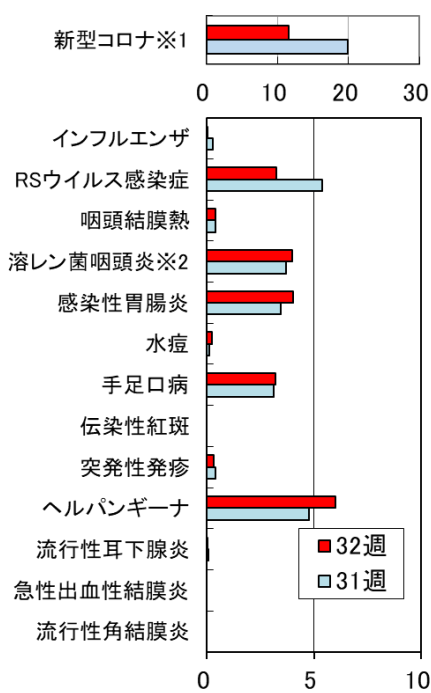
報告数は675人(11.6)で、前週比59%と減少した。高千穂(19.5)、延岡(18.1)、中央(16.5)保健所からの報告が多く、年齢群別は15歳未満が全体の約3割を占めた。

【RSウイルス感染症】

報告数は117人(3.3)で、前週比61%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.8)の約1.8倍であった。中央(10.0)、小林(5.0)、宮崎市(4.9)保健所からの報告が多く、年齢群別は6ヵ月から2歳が全体の約7割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

《前週との比較》



定点あたり報告数

※1 新型コロナウイルス感染症

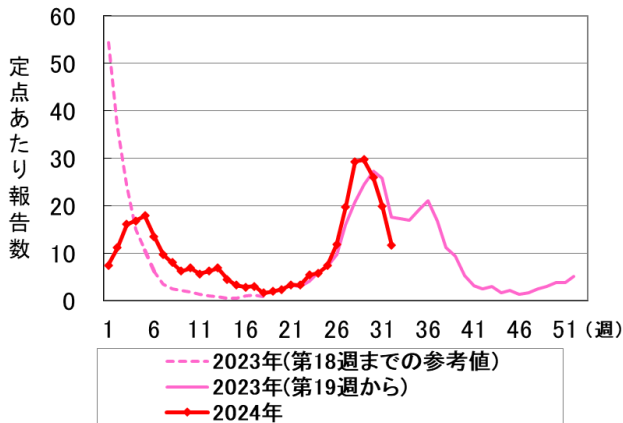
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【ヘルパンギーナ】

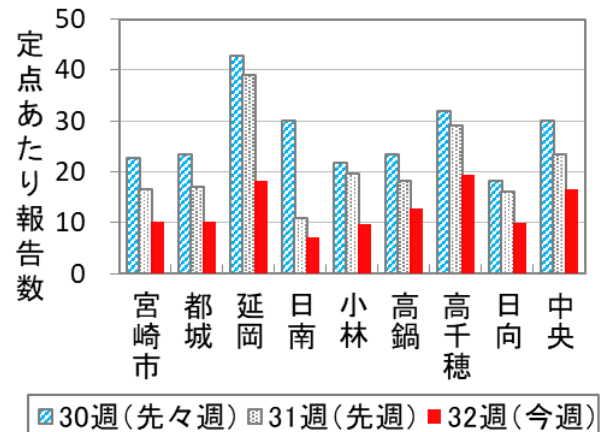
報告数は 216 人(6.0)で、前週比 126%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(1.3)の約 4.8 倍であった。日南(12.3)、宮崎市(9.4)、中央(6.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は 6 ヶ月から 5 歳が全体の約 9 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

新型コロナウイルス感染症 発生状況

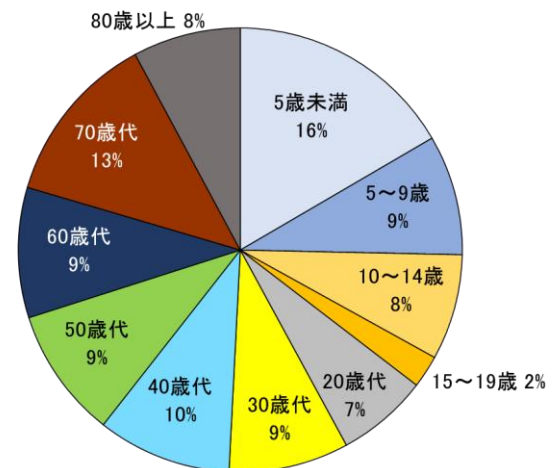


新型コロナウイルス感染症
保健所別推移(3週分)

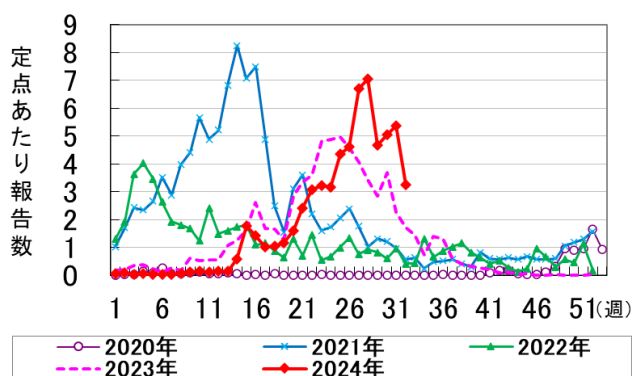


※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週～第 18 週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

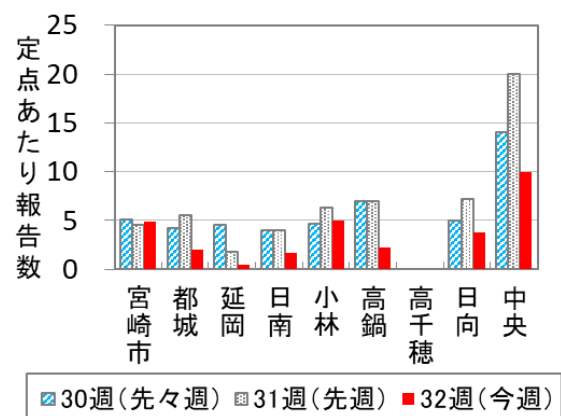
新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第 32 週)



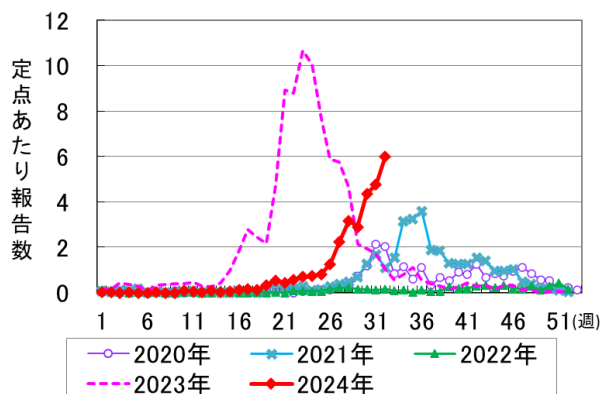
RSウイルス感染症 発生状況



RSウイルス感染症
保健所別推移(3週分)

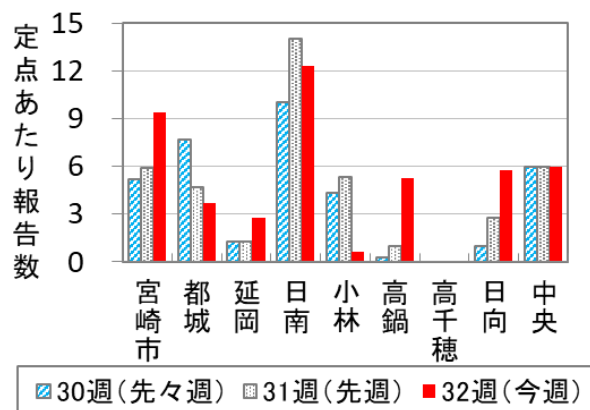


ヘルパンギーナ 発生状況



ヘルパンギーナ

保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：高鍋保健所より1例報告があり、年齢は5～9歳であった。

○感染性胃腸炎(ロタウイルス)：宮崎市保健所より1例報告があり、年齢は5～9歳で病原体の群別は不明であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

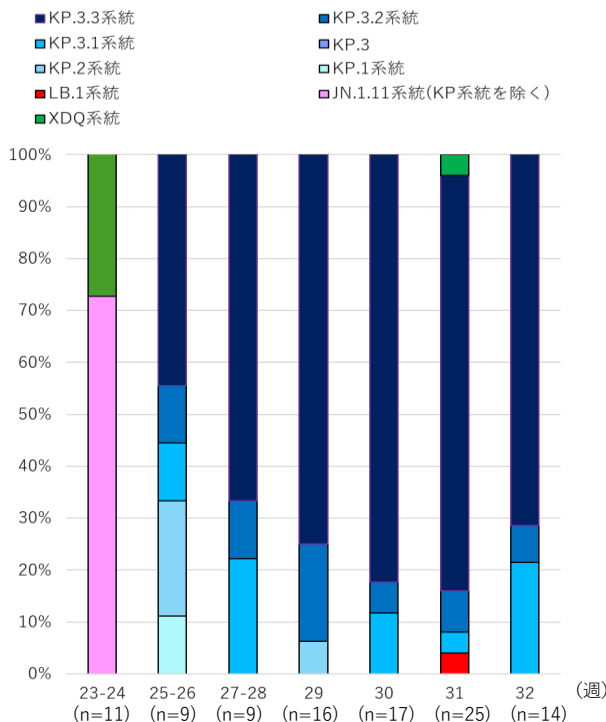
保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	ヘルパンギーナ(9.4)
都城	なし
延岡	なし
日南	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(10.0) 手足口病(5.3)、ヘルパンギーナ(12.3)
小林	手足口病(5.3)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	ヘルパンギーナ(6.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8)
- ・手足口病(5)
- ・ヘルパンギーナ(6)

□新型コロナウイルスゲノム解析結果情報（衛生環境研究所微生物部）

新型コロナウイルスゲノム解析週と検出系統の割合



○第32週は全てが KP.3 系統で、そのうち KP.3.3 系統が約 71%を占めている。

※KP 系統は JN.1.11.1 の子孫株で、現在、日本、欧米で流行している。
ゲノム解析は概ね前週の検体を用いて実施している。なお、解析検体数が多い場合は割合の変動が大きくなる。
衛生環境研究所においては、県内医療機関の協力のもと、新型コロナウイルスの PCR 陽性となった検体を毎週収集し、ゲノム解析を実施している。

全国 2024 年第 31 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	242 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	131 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	8 例	回帰熱	1 例	重症熱性血小板減少症候群	2 例
	デング熱	5 例	日本紅斑熱	10 例	ブルセラ症	1 例
	ボツリヌス症	1 例	類鼻疽	1 例	レジオネラ症	46 例
5類感染症	アメーバ赤痢	9 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	30 例
	急性脳炎	8 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17 例
	後天性免疫不全症候群	12 例	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	10 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	23 例	水痘(入院例)	11 例
	梅毒	177 例	播種性クリプトコックス症	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	百日咳	55 例	風しん	1 例	麻しん	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 89%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病及びヘルパンギーナであった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 65,699 人(13.3)で前週比 91%と減少した。佐賀県(27.8)、長崎県(21.3)、愛知県(20.1)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 2 割を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 6,382 人(2.0)で前週比 90%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.8)の約 2.7 倍であった。鳥取県(5.3)、福岡県(4.7)、茨城県(4.2)からの報告が多く、年齢群別では 4 歳から 7 歳が全体の約半数を占めた。

手足口病の報告数は 30,037 人(9.6)で前週比 80%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(3.0)の約 3.2 倍であった。長野県(20.9)、青森県(20.7)、滋賀県(17.3)、三重県(17.3)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 4 歳が全体の約 7 割を占めた。 * 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2024 年 7 月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は42人(3.2)で、前月比105%と増加した。また、昨年7月(2.6)の約1.2倍であった。

《疾患別》

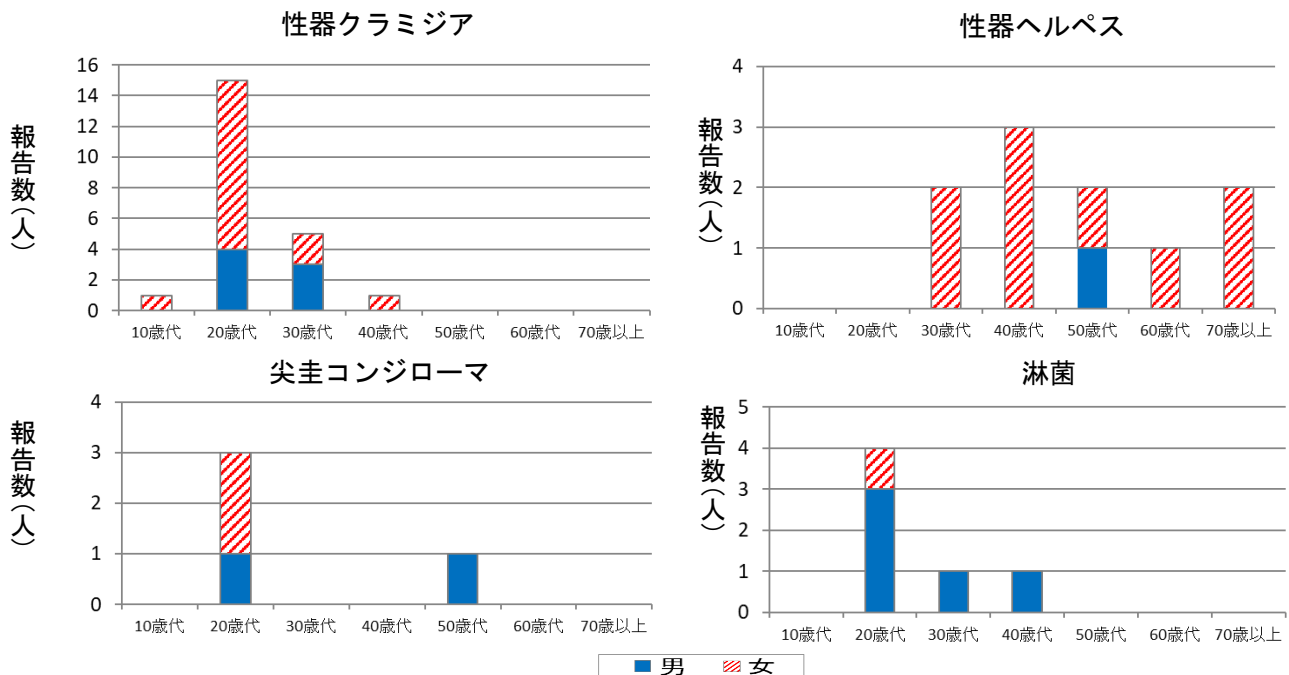
○性器クラミジア感染症：報告数22人(1.7)で、前月と同率、昨年7月の約0.9倍であった。

20歳代が全体の約7割を占めた。(男性7人・女性15人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数10人(0.77)で、前月の約1.3倍、昨年7月の約3.3倍であった。(男性1人・女性9人)

○尖圭コンジローマ：報告数4人(0.31)で、前月と同率、昨年7月の4.0倍であった。(男性2人・女性2人)

○淋菌感染症：報告数6人(0.46)で、前月及び昨年7月と同率であった。(男性5人・女性1人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,871人(5.0)で、前月比104%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,674人(2.7)で前月比106%、性器ヘルペスウイルス感染症864人(0.88)で前月比97%、尖圭コンジローマ571人(0.58)で前月比104%、淋菌感染症762人(0.78)で前月比107%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は26人(3.7)で、前月比104%とほぼ横ばいであった。また、昨年7月(3.1)の約1.2倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数25人(3.6)で、前月と同率、昨年7月の約1.1倍であった。70歳以上が全体の6割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)であった。(前月及び昨年7月報告なし)

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,455人(3.0)で、前月比112%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,371人(2.9)で前月比113%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症76人(0.16)で前月比100%、薬剤耐性緑膿菌感染症8人(0.02)で前月比200%であった。

(71 定点医療機関)

2024年 第32週(08月05日～08月11日)

[illegible]

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2024年 第1週～32週 保健所受理分)

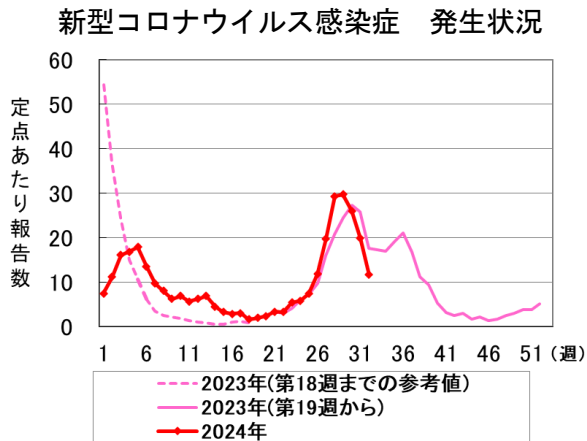
2類感染症	結核	66例(1)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	24例				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	7例
	つつが虫病	14例	日本紅斑熱	6例(1)	レジオネラ症	9例
5類感染症	アメーバ赤痢	3例(1)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10例	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	10例	水痘(入院例)	4例	梅毒	95例(3)
	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	2例	百日咳	38例

()内は今週届出分、再掲

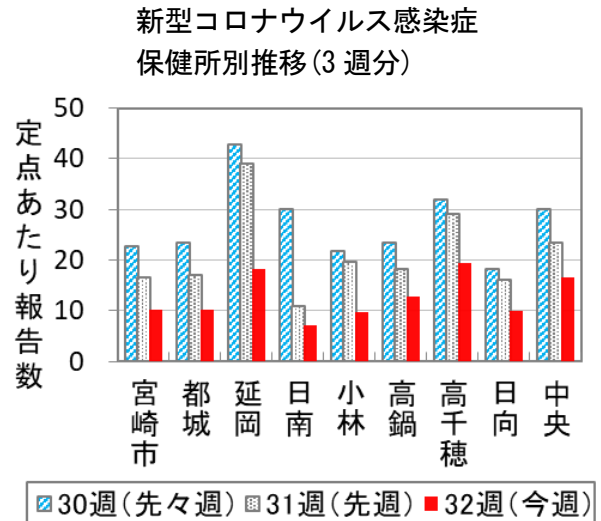
新型コロナウイルス感染症情報《県内第 32 週、全国第 31 週（再掲）》

□ 県内第 32 週 新型コロナウイルス感染症発生動向

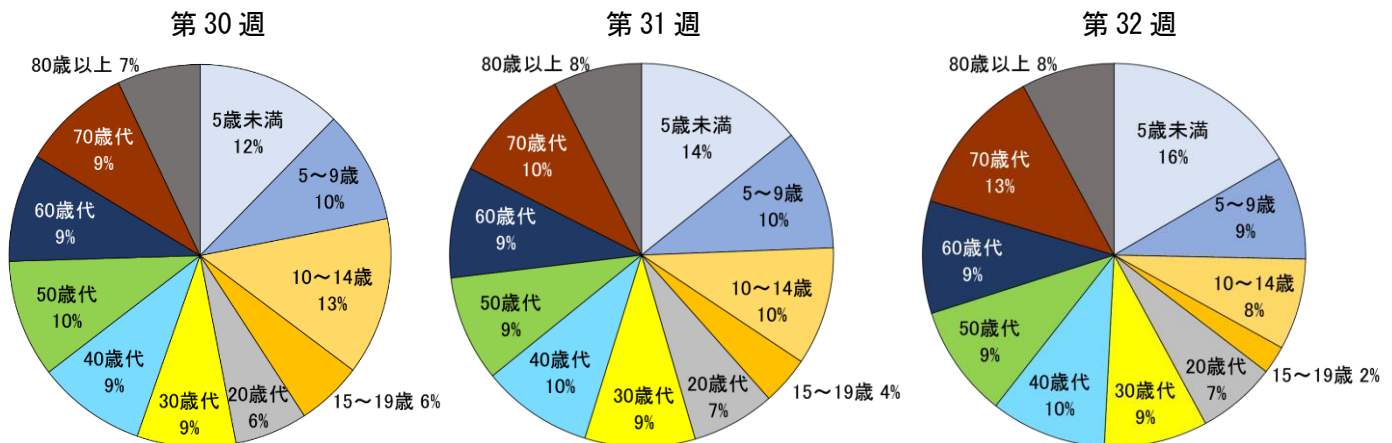
8 月 5 日～8 月 11 日までの 1 週間で 675 人(11.6)の報告があった。前週比 59%と減少し、高千穂(19.5)、延岡(18.1)、中央(16.5)保健所管内からの報告が多かった。



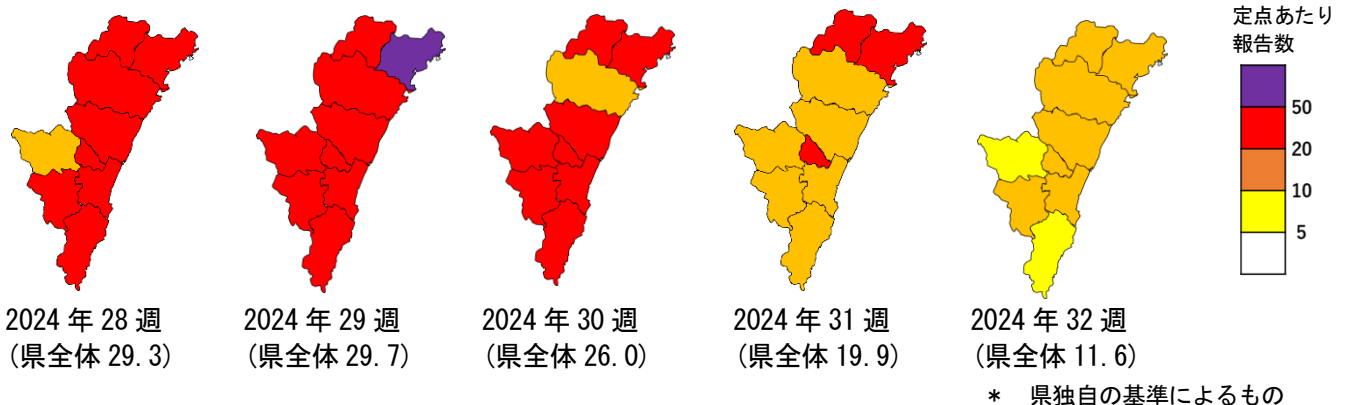
※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週～第 18 週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値



新型コロナウイルス感染症 年齢群別グラフ



保健所別新型コロナウイルス感染症流行マップ 2024 年第 28 週～2024 年第 32 週



□ 全国第 31 週 新型コロナウイルス感染症発生動向

7 月 29 日～8 月 4 日までの 1 週間で 65,699 人(13.3)の報告があった。前週比 91%と減少し、佐賀県(27.8)、長崎県(21.3)、愛知県(20.1)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 2 割を占めた。